

【総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書】

(モデル校名 福岡県前原市立前原小学校)

○学校の概要

前原市立前原小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	4	4	2	27	36
児童数	165	136	144	149	147	121	4	866	

1 本年度当初における本校の「総合的な学習の時間」の課題

- (1) 目標設定においては、総合的な学習の時間においてめざす子供の姿をその単元レベルでの具体的な子供の姿として明確にできず、共通理解を図ることが不十分であった。
- (2) 地域のひとつ・もの・ことの積極的活用においては、前年度の踏襲に留まり、身近にある新たな地域教材化が行われていない。
- (3) 身につけさせべき資質・能力が曖昧で、評価の規準が明確にされていない。

2 モデル事業としての研究の経緯と方向性

平成15年9月、文部科学省からの事業説明を受け、前原市「総合的な学習の時間」モデル事業4校推進委員会（以下、推進委員会）が設置され、月1回の実施が定例化された。

この会が設置されたことにより、本校の総合的な学習の時間において次のような新たな課題が明らかになった。

- ① 本校・加布里小学校の子供の大半・南風小学校の一部の子供は、前原西中学校へ入学するにも関わらず、総合的な学習の時間で身につけさせたい資質能力や各校の学習内容等の情報交換がなされていない。よって、中学入学時の子供の学びにばらつきが見られ、中学校での総合的な学習の実施が極めて困難であるという実態を知らないまま本校独自に計画・実践を行っていた。
- ② 本校職員は、総合的な学習の時間に対して「4年間で育てる」という意識が強く、中学卒業までの7年間で育てる観点から中学年・高学年でめざす子供の姿をイメージするようなことがなかった。

以上のような課題を改善するために、推進委員会において本校及び他3校の推進計画や実施状況について報告するとともに共通すべき点はどこかを洗い出していた。

今後は、推進委員会で明らかになった点をもとに中学卒業までの7年間で育てるという観点に立った次年度の本校の推進計画案と年間指導計画を作成していく。

3 平成15年度の取り組み内容とその成果と課題

モデル事業としての15年度の取り組みとしては次のようなものである。

- ① 3小学校と前原西中学校の総合的な学習の時間の平成15年度の推進計画と年間指導計画を持ち寄り、4校で指導の重点化を図ることができる領域を見いだす。
- ② 各校の総合的な学習の時間において目指している子供の姿や身につけさせたい資質・能力を報告しあうなかで、4校において7年間で目指す児童生徒像を作成していく。

このような取り組みによって明らかになった本校の成果と課題は次のようなものである。

成果

- ① 推進委員会の方向性をうけて、7年間で育てるという総合的な学習の時間に対する教師の意識の変化が見られた。
- ② 「福祉」「環境」という4校の指導の重点領域が明らかになり、今後の総合的な学習の時間の学習内容に深まりが見られそうな環境が整いつつある。

課題

- ① 推進委員会で設定しためざす子供の姿と身につけさせたい資質・能力と本校のめざす子供の姿や身につけさせたい資質・能力に違いが見られる。
- ② 設定した子供の姿や資質・能力をみとる評価の観点と方法が曖昧であるため、子供の到達度を明らかにすることができず、結果、単元レベルだけでなく学期または年間の単元の配列の有効性が明確にできなかった。

4 本年度の課題をふまえた平成16年度の見直しの視点と取り組み予定

- 推進委員会で設定されためざす子供の姿、資質・能力をふまえて、本校の全体計画と評価の観点と方法などが具体化された本校の推進計画の見直し
- めざす子供の姿に到達できるような単元間、学年間の関連を図ったより有効な年間の単元配列、単元構想のあり方の研究

平成16年度前原小学校「総合的な学習の時間の全体計画」

<p>関係法規等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・市及び県教育施策 	<p>学校の教育目標</p> <p>人間尊重の精神を基盤に、豊かな心をもったたくましい子どもを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び、よく考え表現できる賢い子ども ○ 思いやりがあり、助け合うことができる優しい子ども ○ 根気よくやり通すことができるがんばる子ども 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものに興味関心を示し課題をもって学習に取り組むことができる。 ・教師の助言で追究の見通しを立てれば意欲的に取組む。
<p>社会の要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」の育成 ・生涯学習社会の基礎 ・今日的課題に対応する資質・能力の育成 	<p>本校の総合的な学習の目標</p> <p>地域のひと・もの・ことにこだわりをもって関わる体験を通してよりよい生き方について考え、実行しようとする子どもの育成</p>	<p>保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習習慣の定着 ・あいさつなどきちんとできる子どもや豊かな人間関係
<p>地域の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心地にあり商店街や福祉等の公共施設が身近にある。 ・校区を川が流れ稲作学習等自然に恵まれている。 	<p>本年度の重点（努力点）</p> <p>地域のひと・もの・ことにこだわりをもって関わる体験を通してよりよい生き方について考え、実行しようとする子どもの育成</p> <p>(1) 環境と福祉をテーマにした学習（単元）を中心に課題把握や思いの発信を通して、環境や福祉への関心や思いやりを育てる。</p> <p>(2) 評価の視点を明確にし、身につけさせるべき資質・能力を各単元に系統的に位置づけ問題解決能力や学び方もの見方の確かな向上を図る。</p> <p>(3) 地域の施設や人材を積極的に活用し、学年間や単元間の関連を図りながら、子どもの学びの場が拡大・発展するように支援する。</p>	<p>教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現力、コミュニケーション能力の育成 ・課題を切実に受け止め根気強く追究力の育成 ・豊かな人間関係を築ける子どもの育成

学習テーマの目標（中学年・高学年におけるめざす子ども像）

	中学年	高学年
環 境	○ 地域の自然や環境との感動的な出会いから、関心を持ち親しみながら生き物の世話や観察をしたり、地域の施設に関する関わり方や問題点を調べたりする活動を通して、自分たちの生活と環境との関わりについて自分なりの考えを作ることができる。自然の生き物を大切にしようとする態度の育成に重点をおく。	○ 生活をとりまく環境に関心を持ち、見通しをもって地球の環境に関する調査活動を通して生物と環境の関係や身のまわりの自然環境と人々の生活のつながりについての自分の考えを様々な事象をもとに関連づけながら多面的に作ることができる。主体的に環境と関わり、環境を大切にしようと言う実践的態度の育成に重点をおく。
福 祉	○ 身近な地域の高齢者の方や障害のある人々とのふれあい活動を通して共に過ごすことの楽しさを感じながら思いやりの心をもつことができる。	○ 身近な地域の高齢者の方や障害のある人々とのふれあい等の具体的で多様な活動を通して、共に生きるために誰に対しても同じ目線に立ち、思いやりの心をもつことができる。
国 際 解 決	○ 異なる生活習慣や文化にふれる活動を通して異なる文化に対する関心と外国の人に対する親しみをもつことができる。	○ 現在の福祉問題と自分との関わりについて考え、地域の奉仕活動など福祉に関する諸活動に関心を持ち、積極的に参加しようとする態度を育てる。
集 団 づ くり	○ 身近な福祉施設や事業所の存在に気づき、その役割について理解することができる。	○ 外国の文化を尊重し、外国の方と共に生きていくために自分ができることを考える。
	○ 集団で行動することの楽しさを感じながら集団で活動する中で友だちや自分のよさに気づくことができる。	○ 自分の集団に愛着を感じて活動しながら、集団に誇りを持ったり、自分に自信をもたったりすることができる。

身につけさせたい資質能力（中学年・高学年）

	中学年（3・4学年）	高学年（5・6学年）
問 題 解 決 能 力	○ 具体的な事象を比較したり関係づけたりして課題を見つけることができる。	○ 具体的な事象を複数の視点や条件から関係づけながら課題を見つけることができる。
学 び 方	○ 課題解決のための見通しをもち、簡単な計画を立てる。	○ 課題解決のための見通しや予想をもち、具体的な追究方法をもって学習計画を立てることができる。
の 見 方	○ 計画をもとにねらいに基づいた情報収集を行い課題に対する自分なりの考えをつくらうとする。	○ 計画をもとに様々な情報を収集し、課題に対する自分なりの考えをつくらうとする。
主 体 的 参 与 意 欲	○ 課題に対する自分の考えを明らかにし、学習の成果をまとめる。	○ 課題に対する自分の考えを明らかにし、学習の成果をまとめたり、結論づけたりする。
学 び 方 の 見 方	○ 視点を決めて身近な範囲から情報収集したり、収集の手段を広げたりすることができる。	○ 広い範囲から多様な情報を収集したり、情報収集の手段を選択したりすることができる。
主 体 的 参 与 意 欲	○ 相手や目的に応じて自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。	○ 目的や意図に応じて自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。
学 び 方 の 見 方	○ 自分と友だちの考えを比べながら話し合うことができる。	○ 相手の立場や意図を考えながら話し合うことができる。
主 体 的 参 与 意 欲	○ 学習の仕方や進め方を振り返ることができる。	○ 学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習に生かすことができる。
学 び 方 の 見 方	○ 事象と事象を比較したり、関係づけたりすることができる。	○ 事象間の因果関係を分析したり、総合したりすることができる。
主 体 的 参 与 意 欲	○ 学習対象に興味や関心をもつことができる。	○ 学習対象に興味や関心をもつことができる。
学 び 方 の 見 方	○ 積極的に追究活動をすることができる。	○ 積極的に追究活動をすることができる。
主 体 的 参 与 意 欲	○ 自分が考えた方法で追究することができる。	○ 自分のアイデアやこだわりをもって追究することができる。
学 び 方 の 見 方	○ めあてをもって追究することができる。	○ 目的意識を持って追究することができる。
主 体 的 参 与 意 欲	○ 学習の成果を生活の中で効果的に活用することができる。	○ 学習の成果を生活の中で効果的に活用することができる。
学 び 方 の 見 方	○ 課題に対する自分の見方や考え方をもつことができる。	○ 課題に対する自分の見方や考え方をもつことができる。
主 体 的 参 与 意 欲	○ 学習の成果から自分の伸びを自覚することができる。	○ 学習の成果から自分の伸びを自覚し、自信をもつことができる。
学 び 方 の 見 方		○ 今の自分の望ましい行為のあり方を明らかにすることができる。